

2014 JUA/AUA Resident Program 参加報告

石 岡 桂 (慶應義塾大)

今年度の AUA は 2014 年 5 月 16 日～21 日、米国オーランドで開催され、私は JUA/AUA レジデント交流プログラムの一員として東京大学の田口先生とともに参加させて頂きました。私にとっては昨年のミラノに続く 2 回目の国際学会でしたが、初めての AUA への参加で、出発前から緊張と興奮の連続でした。

本プログラムでは、学会参加費と滞在費をご支援頂き、かつ IC/PG course の無料受講特典がありました。また参加できるプログラムが多数準備されており、全てとても有意義なものでした。

レジデント向けプログラムでは、若手医師が臨床や研究をどのように行うべきかについて、エキスパートによる講演がありました。ライフ・ワークバランスや臨床・研究バランスの重要性とそのためのノウハウが語られました。また研究に関しては、仮説の設定が必須であること、現在正しいとされている事が必ずしも正しくないこと、「Big data」を用いた研究が進行中であることなど、盛り沢山の内容でとても勉強になりました。また海外のレジデントの考え方にも刺激をうけ、大変貴重な経験となりました。

IC/PG course では排尿機能や膀胱癌のセッションを受講し、ビデオウロダイナミクスに関する新たな知識を得ると同時に、海外ならではの活発な討論を目の当たりにし大変勉強になりました。

学会 2 日目に参加した、展示会場で開かれた「Resident Bowl」というレジデントによるチーム制のクイズ大会では、優秀な各国のレジデントの解答に刺激を受けました。また事前にスマートホンのアプリで過去問を閲覧でき、とても勉強になりました。

また本年も引き続き、アトランタの Emory 大学の教授で Atlanta VA Medical Center のトップでもある Dr. Chad Ritenour がメンターを務めて下さり、会食にも招待して頂きました。Ritenour 教授は AUA の評議員で、



一番左、著者、中央 田口先生 (東京大学)、一番右、Dr. Chad Ritenour (Emory 大学)

ご専門はアンドロロジーであり、親日家です。AUA 全般に関する情報に加え、米国でのアンドロロジーの臨床、日本との違いなどについてもお聴きすることが出来、大変有難かったです。

他にも JUA/AUA ジョイントセッションでは、1 つのテーマに関して異なる国の医師が意見交換することの重要性を実感し、また様々な専門領域に関する、幅広くかつ充実した Plenary session や特別講演を聴くことが出来、とても刺激をうけました。

ユニバーサルスタジオで開催された Grand Reception では、日本の他大学の多くの先生と交流できました。また President's Reception では各国の泌尿器科の大御所の先生にお会いでき、緊張と感激が交錯した貴重な経験をさせて頂きました。

今回私にこのような貴重な機会を与え、全面的にサポートして下さった JUA ならびに AUA の皆様、またご推薦いただいた当教室の大家基嗣教授に、心からの御礼を申し上げます。